タイトル：マムルーク朝文書セミナー
日時：2023 年 1 月 28 日（土）～1 月 29 日（日）
場所：東京外国語大学 AA 研 304 教室

笹原　健（京都大学大学院文学研究科　修士課程 2 回生）

アラビア語文書研究の専門家であるオマル・アリー氏を講師に迎えたマムルーク朝文書セミナーが、2023 年 1 月 28 日と 29 日の 2 日間にわたって東京外国語大学で開催された。大学院生を中心に、各地から多くのマムルーキストが参加し、活発な議論、交流が行われた。

1 日目は、コーディネーターである熊倉和歌子氏による趣旨説明と参加者全員の自己紹介の後、オマル氏による古文書解説が行われた。片紙文書、糸綴じ文書、台帳といった文書の類型から始まり、印章・花押の書式といったテクニカルな面まで解説がなされた。「叙述史料だと思われていた史料に、実は文書史料も含まれている場合があるため、文書研究者は幅広い史料をみる必要がある」と述べるオマル氏の姿が印象的であった。

ガイダンスが終わると早速文書講読にうつった。本セミナーで扱ったテキストは、売買文書、イクター文書、ワクフ文書、手紙史料など多岐に渡る。まず、参加者はそれぞれ解読できた文字を書き出し、その後オマル氏が解説するという形で進められた。文字の判読が困難で、歯が立たない文書が多かったが、2 日間文書に向き合ううちに僅かではあるが解読できる箇所が増えていくように感じた。

2 日目は文書講読と並行してスィヤーク数字の解説がなされた。筆者を含め参加者の多くはこの特殊な数字表記に驚きを隠せない様子だったが、オマル氏の双方向的な講義を受けるうちに、次第に解読スキルを向上させたように感じられた。この日は文書講読に加えて輪読も行った。参加者と講師の意見交流も増え、よりアクティブな雰囲気の中で文書に向き合うことができたと感じる。

本セミナーの使用言語はアラビア語だったため、筆者にとってはコミュニケーションが困難な状況であった。しかし、オマル氏の情熱的かつ気さくな人柄のおかげで、非常に楽しく、かつ濃密な 2 日間を過ごすことができた。同時に、オマル氏とアラビア語でコミュニケーションを取る他の参加者の姿を見て、自身のアラビア語の会話能力を向上させる必要があると痛感した。

さらに、今回のセミナーは、上記のように文書を学ぶ素晴らしい機会であると同時に、全国のマムルーキストと交流する貴重な機会でもあった。各地の大学院生と顔を合わせ、親交を深めつつ、研究についての意見を交換し、良い刺激を受けた。今回の経験を活かし、自身

の研究に役立てたい。

最後に、このように実り豊かなセミナーの企画、運営をしてくださった方々に感謝申し上げる。とくに講師のオマル・アリー氏、コーディネーターの熊倉和歌子氏には心から謝意を表したい。